段階的な防災気象情報を活用して早めの避難を

気象庁予報部予報課

1　はじめに

傾斜の急な山地や河川が多い日本では、台風や前線による大雨によって、崖崩れや土石流、河川の氾濫などが発生しやすく、人々の生命が脅かされるような自然災害が、毎年のように発生しています。皆さんが早めに避難などの防災行動をとることができるよう、気象庁は時間を追って段階的に「注意報」や「警報」などの防災気象情報を発表しています。これらを有効に活用し、早め早めの防災行動をとるようにしましょう。

1）住んでいる地域の災害の危険性を確認

大雨による災害から命を守るためには、まずご自身の周囲がどのような区域にあるのか把握し、どのような災害が起こる可能性があるのかあらかじめ想定し、情報の入手方法や避難のタイミング、避難先を確認しておくことが重要です。市区町村が作成しているハザードマップには、土砂災害の発生する危険性のある区域（土砂災害警戒区域等）や河川が氾濫した場合の洪水によって浸水が予想される区域等が示されています。洪水のハザードマップには比較的大きな河川の浸水想定区域が記載されていますが、中小河川でも人命にかかわる洪水が発生することがあります。最近では、高齢者福祉施設で入所者９名が亡くなった岩手県岩泉町の豪雨（平成 28 年８月）や、九州北部豪雨（平成 29 年７月）では、いずれも中小河川の氾濫で大きな被害が発生しています。浸水想定区域に入っていなくても、河川の近くにお住いの方は河川の氾濫による災害が起こる可能性があると考えておく必要があります。

なお、ハザードマップは一定の条件下で被害の想定をしたものですので、マップ上で危険な地域と示されていなくても、「うちは大丈夫」と甘くみないで、ご自身の周囲の地形（中小規模の河川など）も参考に心構えをしておくことが重要です。

2）段階的な防災気象情報

災害から命を守るためには、一人ひとりが災害に対する備えをしておき、危険を感じたら早めに避難するなど、自らの命を守るための防災行動を起こすことが重要です。

その時に役立つのが、気象警報・注意報などの防災気象情報です。気象警報を発表するような激しい現象は、ひとたび発生すると命に危険が及ぶおそれがあります。そうした現象が予想される数日前から、気象庁では「警報級の可能性」や「気象情報」を発表し、その後の危険度の高まりに応じて「注意報」、「警報」、「特別警報」を段階的に発表するとともに、お住まいの地域の危険度が分かる危険度分布などの情報もホームページで提供しています。

気象警報・注意報は、市区町村ごとに発表しており、危険度の高まる時間帯が一目で分かるよう、赤色（警報級）や黄色（注意報級）に色分けしてホームページに時系列形式で表示して

危険な時間帯を色分け表示（気象庁 HP・警報注意報）

います。

雨が降り出したら、大雨や洪水の「警報」、さらに「土砂災害警戒情報」にも注意しましょう。この「土砂災害警戒情報」は、大雨警報の発表後、命に危険が及ぶ土砂災害がいつ発生してもおかしくない非常に危険な状況となったときに発表している情報です。

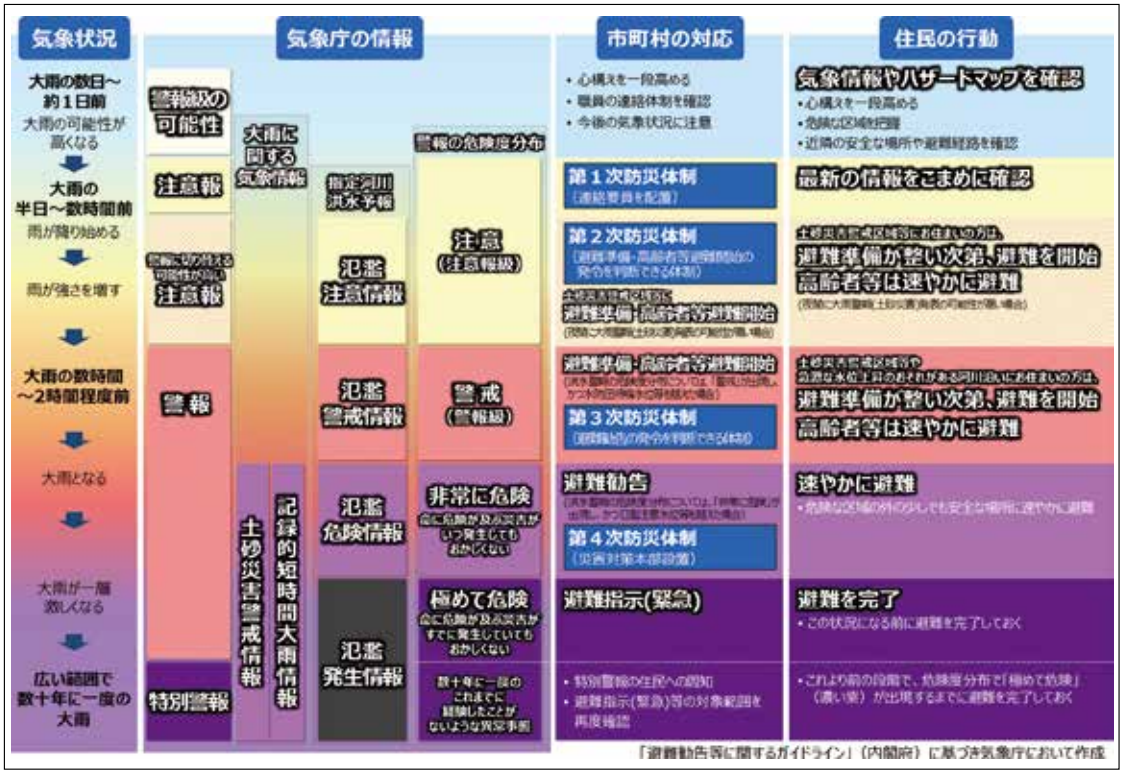
これらの情報を補足する情報として、実際に危険度が高まっている地域をリアルタイムで細かく地図上に色分け表示する「大雨・洪水警報の危険度分布」も気象庁ホームページで公開しており、パソコンやスマートフォンから確認できます。「危険度分布」で最大危険度の「濃い紫」が出現した場合は、過去の重大な災害時に匹敵する状況となっていることを示し、重大な災害がすでに発生しているおそれが高い状況を表しています。このため、それより前の時点、遅くとも「うす紫」が出現した時点で避難開始が必要とされています。

また、早めの備えに役立てていただけるよう、警報・注意報に先立って、５日先までの警報級の現象が起こる可能性を示す「警報級の可能性」も発表しています。

この他に、15時間先までの雨の分布予報が確認できる「今後の雨」も気象庁ホームページで公開しています。

さらに、来年からは台風の最大風速等の強さに関する予報の期間を、３日間から５日間に延長する予定ですので、より一層早めの備えに役立てていただけるようになります。

天気予報やニュースで大雨や台風に関する注意を呼び掛けていたら、テレビやラジオ、気象庁ホームページで、最新の情報を入手するよう心掛けましょう。時間を追って段階的に発表される「注意報」、「警報」、「土砂災害警戒情報」や「危険度分布」等を活用いただき、早めの避難行動につなげていただくようお願いします。



危険度の高まりに応じて段階的に発表される防災気象情報とその利活用例

2　15時間先までの雨の分布を表示する「今後の雨」

今後の雨

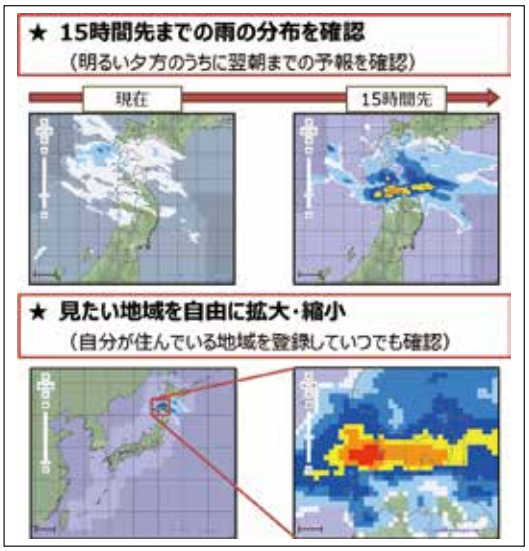
気象庁は平成30年6月より、気象庁ホームページにおいて15時間先までの雨の分布予報を表示する「今後の雨」ページの提供をはじめました。「今後の雨」ページでは6時間先までは10分ごと、15時間先までは1時間ごとに予報しています。ここでは、「今後の雨」の利活用について紹介します。

1）「今後の雨」の利活用例

「今後の雨」ページでは15時間先までの雨の分布の予報を確認できるため、夜間から明け方に大雨となることが予想されている場合、まだ明るい夕方のうちに翌朝までの雨の分布を確認しましょう。その際、見たい地域を自由に拡大・縮小して確認することができます。お住いの地域を保存して登録することでいつでも確認できます。お住まいの地域で大雨となることが予想されている場合、寝る前に避難の準備をしておくなどの判断にご利用ください。

さらに、夜間に大雨警報（土砂災害）が発表される可能性が高い状況のとき、土砂災害警戒区域等にお住いの方は、「今後の雨」で翌朝までの大雨の動向を確認した上で避難準備や避難開始の判断に役立ててください。

前述のような大雨時の利用に加えて、例えば朝出かける前に夜までの雨の予報を確認し、傘を持っていくか判断するなど、日常生活でも利用することができます。大雨のときにもすぐに使えるように、日頃からのご利用をお願いします。



「今後の雨」の特徴

2）コンテンツの切替え

「今後の雨」で表示している位置を維持したまま「危険度分布」や「雨雲の動き」に切り替えることができます。雨が降り出してからは、「今後の雨」に加えて「危険度分布」で土砂災害、浸水害、洪水の危険度もこまめに確認しましょう。「雨雲の動き」では、1時間先までの雨の強さを5分ごとに予報しています。短時間で発達する雨雲の動向などを確認する際にご利用いただけます。

便利な使い方

また、地図の下にあるツールボタンを開くと、表示状態を変更し、便利に使うことができますので、ぜひご活用ください。

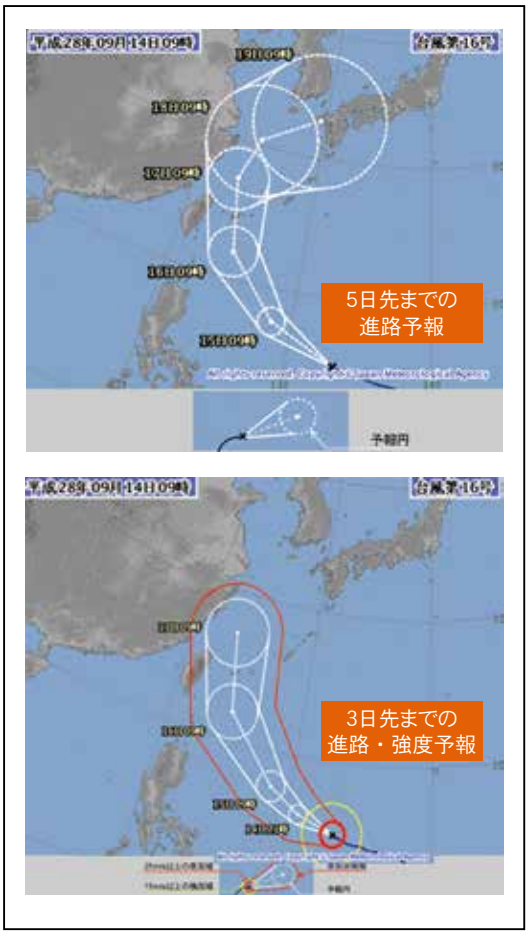
3　台風５日強度予報

■気象庁が発表する台風情報

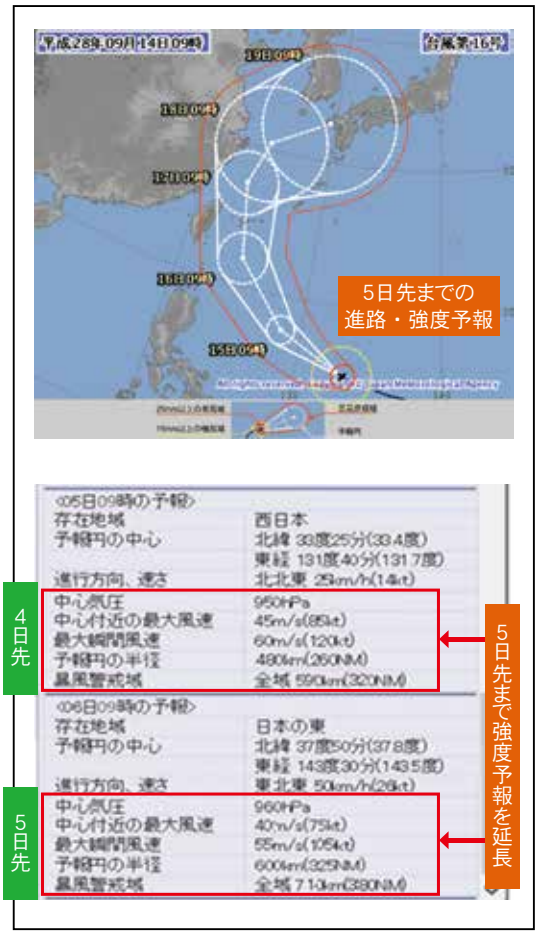
台風が接近すると、強い雨や風、高波、高潮などにより、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫、落雷、竜巻などの激しい突風などによる被害が発生します。このため、気象庁では台風を常時監視し、台風がいま現在どこにあるのか、どのくらいの強さなのか、この後どこに進むのか、発達するのか、弱まるのかなどの情報を「台風情報」として発表しています。台風がどこに進むのかを予報する「進路予報」は５日先まで、台風の発達や衰弱を予報する「強度予報」は３日先まで発表しています。

■台風の強度予報の延長

台風の接近・上陸に備えて、住民や自治体のより早い段階での防災対応が可能となるよう、気象庁では、現在３日先までの台風の強度予報（中心気圧、最大風速、最大瞬間風速、暴風警戒域の予報）を平成 30 年度末までに５日先まで延長する予定です。これにより、進路予報、強度予報ともに５日先までとなり、例えば４日先や５日先に台風の接近が見込まれる地域では、台風の強さの情報もあわせて知ることができますので、より早い段階から効果的な防災対応が可能となります。



現行の進路・強度予報



平成 30 年度末までに提供